

優先順位	改善項目		改善目標	改善に向けた計画内容	期間	評価(平成18年4月13日現在)
	自己	外部				
1	1	1	ホームの理念や方針を職員一人ひとりが理解する。	常に目の付く場所に理念を揚げ意識を高める。	訪問調査後より	なかなか全員に浸透せず単純明確にする予定。
2	9	8	馴染みのある家具や生活用品を持ち込んでいただき、安心して過ごせる場所作り。	利用者との会話などから馴染みのあるものを聞き出し、ご家族に協力を頂けるよう働きかけをする。	訪問調査後より	利用者、家族に呼びかけ徐々にではあるが持ち込まれている。
3	13	10	利用者がホーム内の場所が分かるよう目印をつけ混乱を防ぐ。	利用者の各部屋やトイレの表札の高さに注意して取り付ける。	訪問調査後より	時々、他の利用者の居室に入ろうとされる方がいるがだいたいの方が場所を把握できている。その都度声かけ、誘導することにより、間違いも減ってきている。
4	35	27	できる事、できない事を見極め自立支援をする。	利用者一人ひとりの力量を確認し、極力手や口を出さず見守りを行う。	随時	「できる限り自分のことは自分で」を職員は心掛けるようになり、見守る場面が増えた。
5	27	22	利用者のプライバシーを守る。	利用者の居室の入口を開放せず、出入りの際はロックをする。	その都度	職員一人ひとりが意識するようになったが、出入りの多い利用者の居室が開け放たれていることが時々見受けられる。
6	80	47	口腔の清潔を保つ。	毎食後に声かけを行い、歯みがきの習慣をつけていただく。	その都度	朝起きたとき、夜寝る前にとまちまちで、毎食後の歯磨きというのは徹底できていない。
7	43	30	利用者一人ひとりの使い慣れた食器、好みの物、個々の力量に応じて使用する食器を考え、揃える。	利用者から好みのものを聞き出す。また、家族にも声かけをし、使い慣れたものがあれば持ってきていただく。	訪問調査後より	持ち込まれる物が少なくホームで用意したものが多く使われている。
8	5	4	ホームの理念や役割を地域に理解していただく。	ホーム便りなどを発行する。	月に1回	計画はしているものの発行までに至っていない。
9	134	72	ホームの機能を地域へ開放する。	見学、研修の要望があれば受け入れ、認知症ケアの向上に努める。	年間を通して	見学の要望があれば受け入れ、その都度、ホームの案内、説明を行っている。